レベル	科目名	担当者 （ふりがな）	曜日・時限	教室	目標	授業内容	テキスト	成績評価法
1	日本語１総合B	桂　千佳子 （かつら　ちかこ）	月曜・２限	N401	日本語でより深く自由に表現できることを目指す。 相手との関係や場面への配慮、母語との違い、視点の違いと表現の関係を考えながら、自分の意図通りのやりとりができることを目指す。	資料配布、課題などはすべてTeamsを通して行う。 インタビュー実践とその結果のシェアを丁寧に行っていく。 特に、選んだテーマについて、自分が本当に知りたいことを明確にした上で、どのような表現で質問するべきか、母語とのちがいなどを意識し、自分が求めている（知りたい）ことを引き出せる質問ができるように、質問文作成を丁寧に行う。その上で、実際に日本語ネイティブにインタビューをし、結果をまとめてクラスでシェアしながら質問と答えについて分析と考察を行う。 履修者の人数などによって内容を変更することがある。	プリント等配布・webサイト	平常点（授業参加度）40% 課題提出（Teams「課題」に提出)40% 授業外活動への取り組み20%
	日本語１会話B	稲田　直子 （いなだ　なおこ）	火曜・１限	N313	複雑で、抽象的なことが話せ、相手や場面に応じた適切な話し方ができる。まとまった内容の抽象的な談話、専門的な談話が理解できるようになる。	聞き手にとってわかりやすく、コミュニケーションの目的に合った話し方を習得するために、独話・やり取りの練習をする。授業中には履修者がリーダーとなってディスカッションを行うほか、ディベート、スピーチなどを行う。（履修者の人数によって変更する可能性がある）	プリント配布	授業参加・振り返りコメント50%・ 課題提出 20%・発表30%
	日本語１講読B	新谷 あゆり （しんや　あゆり）	金曜・１限	N405	複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが読めるようになる。	短編・長編小説を展開や結末を想像しながら読む。小説の結末を書く。語彙・表現を学習する。	『阪急電車』有川浩（ありかわひろ）　幻冬舎文庫	参加度（出席・授業態度) 20%、 課題 40%、小テスト・期末テスト40%
	日本語１作文B	稲田　直子 （いなだ　なおこ）	水曜・２限	N204	複雑で抽象的なもの、論理的なもの、専門的なものが書けるようになる。	アカデミックライティングの文法・ルールなどを学びながら、1学期かけて論証型レポートを執筆する。わかりやすく説得力のある文章が書けるよう、レポートだけでなく、短い作文を書くこともある。授業中にはクラスメートと読み合ったり、相談したりして、より良い文章を目指す。文章はパソコンで書くので、毎回持参すること。	『ここがポイント! レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版	授業参加 30%・課題提出 30%・ 発表 20%・レポート 20%
	日本語１文法B	岡　智之 （おか　ともゆき）	木曜・１限	N306	上級の文法項目を習得する。	本授業では中上級日本語学習者を対象に、日本語の文法や類義表現を、「イメージ日本語文法」によって学ぶ。学習者自身が文型の持つ根本的な意味を可視化し、身体活動を通じて直観的・体系的に理解を深めることを目指す。また、留学生自身が母語と日本語の比較分析を行い、類義表現の意味構造の違いについて発表する協働学習を取り入れる。	テキストは使いません。 PPT資料を作ります。	授業への積極的参加・ディスカッション30%、課題提出25%、発表25%、 最終レポート20%
	日本語１漢字B	坂田　睦深 （さかた　むつみ）	火曜・２限	N313	1000字程度の漢字およびそれを使った語彙の運用力を身に着ける。	・第1週で「力だめし」を音読、学習漢字の一部をスライドを使って説明。「要点」を説明。学習漢字を書く宿題（プリント配布）と「練習問題」を行う。 ・第2週はクイズ。クイズは「練習問題」から出題。「練習問題」は自分でやって解答をみてセルフチェックする。一部の「練習問題」をグループで話し合いながら解答する。 ・最後の発表では、分担した課の「学習漢字」から自分が興味を持った漢字を挙げて、自分なりの覚え方、興味をもった理由について述べる。クラスの人数によって、個人発表またはグループ発表とする。内容のユニークさ、発表のわかりやすさ等で評価。宿題が多く、グループワークがあるので出席を重視することを理解した上で受講してほしい。	『Intermediate Kanji Book, Vol.2』（凡人社）奇数課（1, 3, 5, 7, 9, 11課の予定）	各課クイズで30%、課題（「書き練習シート」や教科書の「練習」など）で40%、発表と平常点で30%
	日本語１聴解B	近藤　智子 （こんどう　ともこ）	金曜・２限	N205	抽象度の高い内容や社会的・専門的話題を含む音声資料を正確に理解できる。また、他者の発言を踏まえて自らの考えを述べ、議論を発展させることができる。	ニュース・講義・インタビュー・ディスカッションなど、さまざまな映像・音声教材を用いる。聴解練習を中心に、要約やディスカッションを行い、幅広いテーマに対応できる聴解力・表現力を養う。	プリント配布	授業参加度（出席・活動参加・コメントなど）50%、課題提出30%、発表20%

1	日本語１特別演習B ［ドラマで学ぶ日本語］	宮本 典以子 （みやもと　ていこ）	水曜・１限	N313	まとまった内容の抽象的な談話の流れが理解できるようになる。自分の考えが伝えられるようになる。	ドラマや映画を鑑賞し、実践的な話し言葉を学びます。取り上げる作品は、学園をテーマとしたものを中心とする予定。授業前半の活動（語彙・漢字・言語表現等の学習）はピア活動を基本とします。日本のドラマについての発表や交流タイム等のグループワーク回を1，2回実施する予定です。作品ごとの課題シート（内容に関する問題やコメント等）や発表資料を提出します。	プリント配布	授業参加度40%、提出物40%、発表20%
	日本語１特別演習B ［ビジネスで学ぶ日本語］	福島　恵美子 （ふくしま　えみこ）	木曜・２限	N306	ビジネスに必要な日本語の表現を身につけ、日本語を使用するビジネス場面で求められるコミュニケーション能力を養う。	ビジネス場面で求められる報告、交渉、感謝、クレーム処理、商品説明、企画などのコミュニケーションについて学習する。また、ビジネスメールについても学習する。 1月には発表を行うが、テーマについては相談して決める。	プリント配布	授業参加度（出席・授業態度）40%、 期末テスト20%、発表20%、課題（宿題を含む）20%
	日本語１/２特別演習 B ［プロジェクト］	伊能　裕晃 （いのう　ひろあき）	月曜・１限	N313	日本人学生とのディベートやグループ活動を通して、日本語の総合的な運用能力を高める。	この授業は、日本人学生と一緒に日本語でディベートを行う方法を学ぶ授業である。最初に、ディベートの基本的な練習をした後、学期の前半は、身近なテーマでディベートを行う。学期の後半には、現代社会の様々な問題について、資料を調べ、準備をして、ディベートを行っていく。学期の途中で、生成ＡＩを使ったディベートの練習なども行う。 この授業は学芸大の日本人学生のための授業「学芸フロンティア科目Ｆ」と合同で行われる。日本人学生と毎回会話をする授業であるため、この授業に参加する学生にはある程度の日本語の聴解力と語彙力が必要となる。	プリント配布	授業への参加度(出席、授業態度)40%、課題30%、ディベートの評価30%